

人間が回にするものは何でも食らう！  
雑食の王者

**WANTED**



**イノシシ 約55億円**

得意技 ▶ 高い学習能力  
▶ 強い警戒心 ▶ 圧倒的パワー ▶ 高い防御力（電気を通しにくい剛毛）…

伊豆の国市に住まう **2大巨頭**

地際のすき間でもぐり抜けOK!  
林縁の生活者

**WANTED**



**ニホンジカ 約76億円**

得意技 ▶ 強い警戒心  
▶ 図太い神経 ▶ 驚異的なジャンプ力 ▶ 幅広い食性（農作物なら何でも）…

※表示の金額は、農林水産省平成25年度の全国農作物被害額

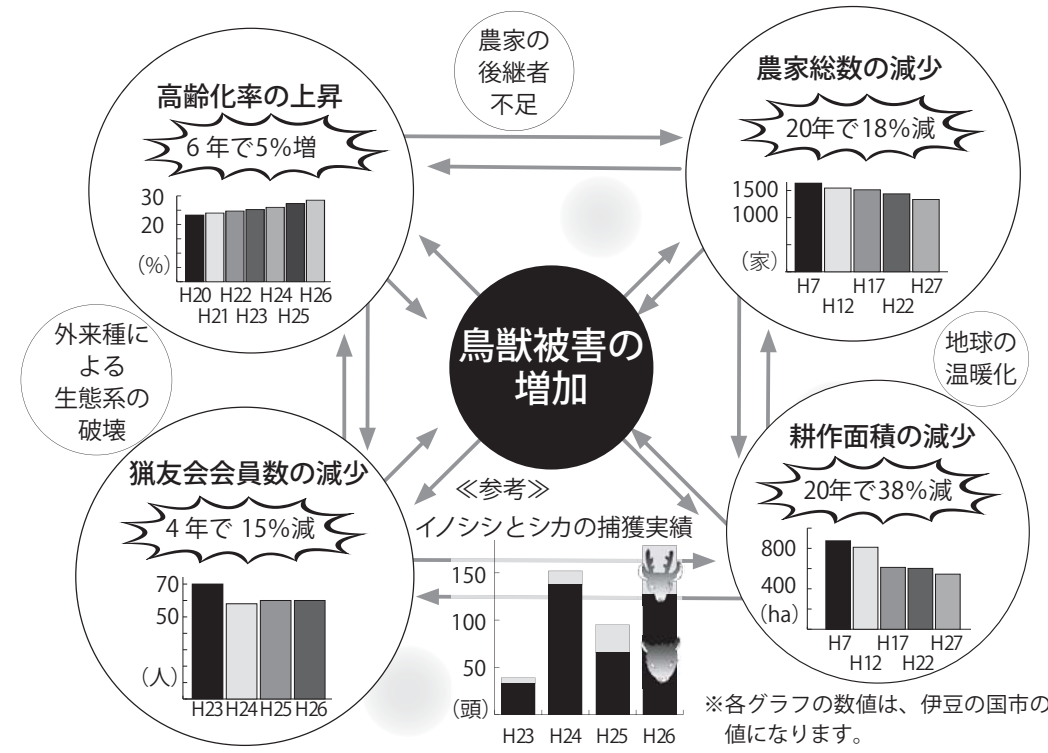


# 特集 振り返れば彼らがいる

—野生鳥獣から生活環境を守る—

野生鳥獣による被害は年々深刻化しており  
今や、全国各地で発生しています  
被害は農作物に留まらず  
生態系や人間の生活環境など広い範囲に及んでおり  
また、増加傾向にあります  
では、いったい、何が原因でしょうか  
あまり関心のないあなた  
ひょっとすると、あなたのその何気ない行動が  
野生鳥獣を呼び寄せているかもしれません  
ほら、振り返ってみれば…

市役所農業商工課 ☎ 0558-76-8003



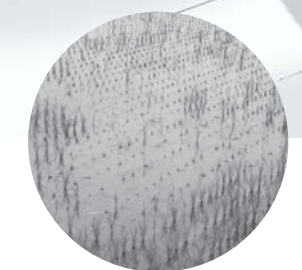
## 鳥獣被害の深刻化の要因 なぜ増えたのか

複合的に絡み合っさまさまな要因

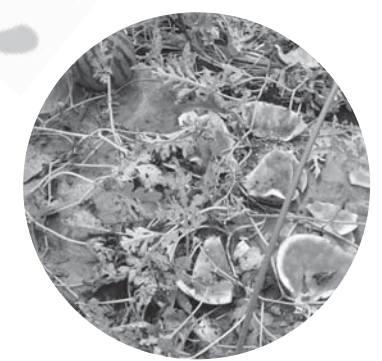
鳥獣による被害の原因は、さまざまな要因が複合的に絡み合うことにより、一層、深刻化しています。「高齢化率の上昇」「農家総数の減少」「耕地面積の減少」「猟友会会員数の減少」など、決して野生鳥獣が昔と違って凶暴化したのではなく、人間社会の変化が「鳥獣被害の増加」をもたらしたということが容易に推測できます。

このような状況（現在の捕獲率）を維持した場合、国は10年後の平成37年度には、ニホンジカ（北海道を除く）の個体数がほぼ倍の500万頭までに増加する可能性があるとの報告されています。

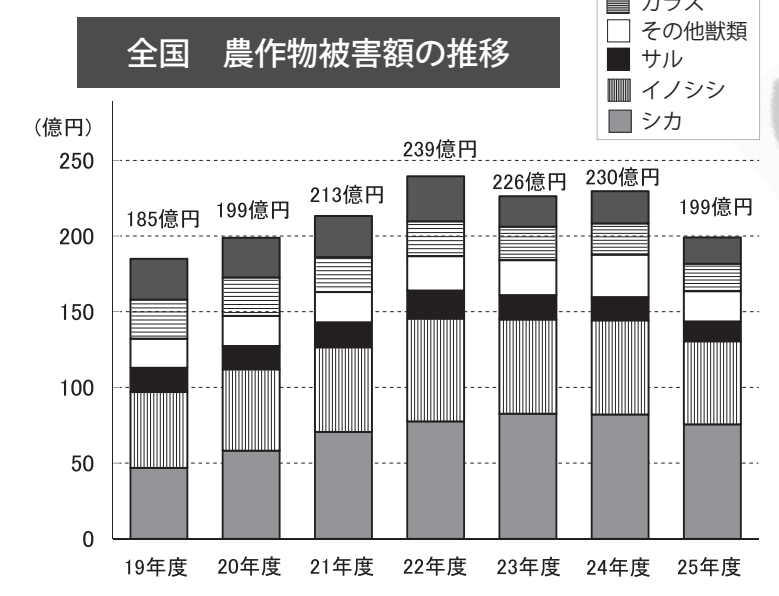
市内でも10年前には、あまり耳にすることがなかったニホンジカによる被害。しかし、最近ではイノシシをも凌駕する勢いで増加しています。



ニホンジカによる稲の食害



イノシシによるスイカの食害



**年間200億円 農家の意欲低下にも**

鳥獣による農作物の被害は年間200億円前後で推移しており、数字に現れない被害としても、農家の意欲低下や耕作放棄地の増加などが深刻な状況となっています。

他にも、森林における植栽木の食害や剥皮被害、それに伴う生態系の破壊など、多岐に及んでいます。



# 鳥獣被害対策のいろは

まずは、鳥獣を寄せつけない環境づくりが大切です。日頃の自分の行いが、鳥獣を寄せつける原因になっていないか確認し、必要に応じて対策をとっていきましょう。

## 『エサ場』を作らない！

農作物はもちろんのこと、身の回りの思わぬ行為が野生鳥獣を引き寄せるエサとなります。野生鳥獣に、そこがエサ場と学習させないように、田畑や家の周りの環境を改善していきましょう。



### 《生ごみの放置》

畑などに生ごみを埋める場合は、臭いなども漏れないように土で厚く覆いましょう。



### 《車からのポイ捨て》



### 《食べ残しの放置》

バーベキューなどで遊んだ後は、しっかり片づけをしましょう。

## 足跡

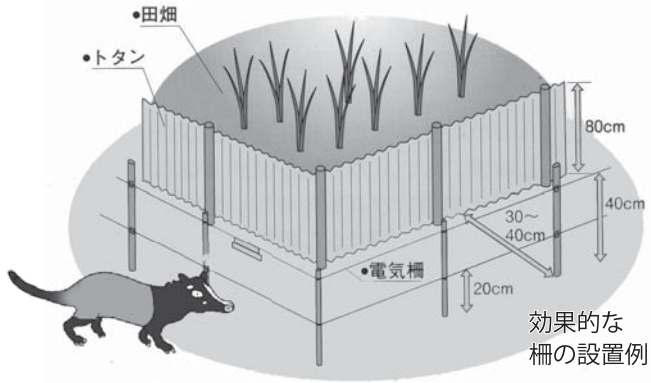
こんなサインに  
要注意！



## 囲いで守る！

柵などの設置は、身近にある自家用菜園など、小規模な田畑を守るのにも有効です。

柵には、ネット柵、電気柵、金属フェンスなどいくつかの種類があります。それぞれの特徴を把握し、獣種や現場に合わせたものを設置しましょう。



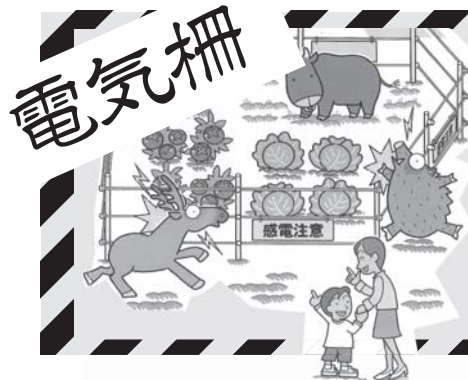
効果的な柵の設置例

## 正しく設置されていますか？

### 危険表示

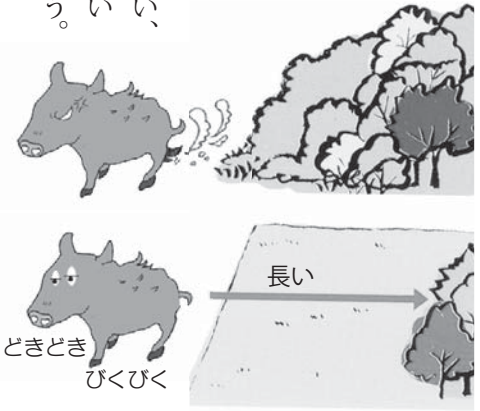
人が見やすいように、適当な位置や間隔で危険表示をする必要があります。

※このほかにも、電気柵を設置する際はいくつかの注意点があります。必ず確認しましょう。



## 近づけさせない！

田畑近くのヤブは、野生鳥獣の格好の隠れ場所となります。また、見かけてもそのままにしておくと、どんどんと人なれが進みます。地域ぐるみで隠れ場所の解消や追い払いを行い、野生鳥獣を近づけさせない環境を作っていきます。



## 彼らが

悪いわけではない

人間社会にとって、さまざまな被害をもたらす野生鳥獣ですが、決して彼らが悪いわけではないかもしれません。

かつて、野生鳥獣は人間にとって『有害』な生き物ではありませんでした。人間社会の変化により、彼らも変わることを余儀なくされたのです。結果、人間の生活圏へも足を運ぶようになり、彼らは『食事』をし、私たち人間にとっては『被害』が生じています。

## 別存こそが歩む道

そのための努力が必要

人間と野生鳥獣が生きる道。それは、人間がしっかりと野生鳥獣の存在を認識し、互いの生活圏を守ることです。この『別存』こそが、互いにとっての望ましい社会ではないでしょうか。私たちは人間は、そのための努力が必要であり、継続して取り組んでいかなくてはなりません。

## 捕獲する

被害が減らない場合は、捕獲を行います。市内には3つの猟友会があり、定期的に活動を行っています。（捕獲には、免許が必要です。）



※自分の畑など、個人的に設置したい場合は、ご相談ください。

## 鳥獣被害対策講演会

もっとすごい**マル秘**の対策、教えます

彼らの生態を知り、その弱点に合わせた対策をとることで効果は倍増します。

誰でもできる「大切な作物を鳥獣のエサにしない勉強会」。地域の皆さんで鳥獣対策を考えましょう。

とき 2月26日（金）

13時30分～16時30分

ところ 市役所伊豆長岡庁舎

3階会議室

講師 埼玉県農業技術研究センター

鳥獣害防除研究 古谷益朗氏

参加 無料

持ち物 筆記用具

申込方法 2月15日（月）までに、電話で申し込みください。

市役所農業商工課  
0558(76)8003